

Information



デュポン™

野菜散布用殺虫剤
ベネビア®
OD

powered by
CYAZYPYR®

農林水産省登録:第23553号

野菜散布用殺虫剤

幅広く害虫を防除

アザミウマ類、ハモグリバエ類、アブラムシ類、コナジラミ類、キスジノミハムシ、チョウ目害虫に高い効果を示します。

10～14日間の持続効果

10～14日間の長期残効性で作物を健全に生育させ、より高い品質と収量が期待できます。

天敵・訪花昆虫に対する高い安全性

ハチ類の導入も制限が少なく、IPMプログラムにも高い適合性があります。

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

●今後、弊社からの情報の受け取りを希望されない場合は、下記FAXもしくはe-mailにてご連絡ください。

農業法人で定期購読をご希望の方は、webサイトよりお申し込みください。

URL https://dcp.dupont.jp/corporationn_question.php

スマートフォンでのお申し込みは、QRコードを読み取りますとwebサイトをご覧いただけます。



デュポン株式会社 農業製品事業部

FAX 03-3549-1819 e-mail news@dupont-info.jp

情報センター 〒104-0045東京都中央区築地3-7-10 JS築地ビル5F

※情報提供の目的でダイレクトメールを発送しております。発送、および内容に関するお問合せは、上記までお願いします。

今日もあなたのそばに。明日もあなたのために。

デュポン通信

2016.4
Vol.42

アブラムシ類 【カメムシ目 アブラムシ科】



モモアカアブラムシ



ワタアブラムシ



ジャガイモヒゲナガアブラムシ



チューリップヒゲナガアブラムシ



ダイコンアブラムシ



ニセダイコンアブラムシ



ネギアブラムシ



ニンジンアブラムシ

アブラムシはなぜ突然増えるの？

春暖かくなってきてふと枝の先端を見ると、アブラムシがびっしり付いているのを見かけることがあります。

ついこの間まではいなかったはずなのに、アブラムシはなぜこんなにも増えるのでしょうか。

越冬したアブラムシは暖かくなって生育に適した気候になると、卵ではなく親と同じ姿をした若虫を1日あたり数匹～10匹程度産みます(卵胎生単為生殖)。

しかも生まれた若虫のおなかの中には既に次の子も宿していて、数日～10日ほどで次の若虫を産めるようになるため、少し目を離している隙にあっという間に数が増えてしまいます(ワタアブラムシは20℃の条件では1匹の雌が1ヶ月で約15,000匹になる計算です)。アブラムシが増えそうな時期には、こまめに畑を見て見落とさないように注意しましょう。

どうして若い葉にたくさんいるの？

アブラムシは増殖して過密状態になると、翅の生えた個体(有翅虫)を産んで新しい餌場を探しに飛んでいきます。有翅虫は若い葉に好んで定着します。これは植物の生育に欠かせない微量元素であるマンガンに関係があります。アブラムシの繁殖には、植物体内でマンガンが欠乏した際に蓄積する代謝物が欠かせません。一方、マンガンは植物体内で移動しづらいため、若い葉では欠乏気味になります。このため、枝先の若い葉でアブラムシがたくさん増えていくこととなります。このような時期には注意して、防除をこまめに行うなどの対策が必要になるかもしれません。また、やわらかくて動きの少ないアブラムシは、自然界では寄生バチ類、テントウムシ類、ヒラタアブ類などの多くの天敵に捕食されます。しかしアブラムシの増殖率は天敵類に比べてとても高いので、増えてしまったからでは天敵の活躍も追いつかないこともあります。これらの天敵類に影響の少ない殺虫剤を適切な時期に選んで使うことも、爆発的に密度を増やさないための工夫です。

アブラムシ類
防除のお勧めは

デュポン™ベネビア®OD、デュポン™ベリマーク®SC、デュポン™プリロツソ®粒剤
詳しくはこちらをご覧ください。 <http://ag.dupont.jp>